不定期刊行　　第 531 号　2015.01.23

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
大町高等学校

西地区登山部顧問雪山研修会

３年前に広島の西部伸也先生の声掛けで始まった「西地区（**中国・四国・九州地区**）登山部顧問雪山研修会」が１月 10、11 の両日に、今年は岡山県で行われたそうである。その報告を西部先生からいただいたので、ご紹介したい。北信越でも 2009 年から同様の自主的な取り組みがなされているが、それを参考に地域をブロックから地区に広げての取り組みである。地域が広がった点や、各県高体連の受け止め方の相違等で困難点もあると聞いているが、継続は力なりともいう。岡山県で行うにあたっては、地元の田中、横井両先生のご尽力で下記のような有意義な研修会となった。息の長い研修会となるように願わずにはいられない。

なお、文中の写真は島根・藤原さんが撮影したものだそうだが、彼はフジカラー全国フォトコンテスト 2013 で銀賞受賞という腕前とのことだ。

第4回西地区登山部顧問雪山研修会報告１（広島・西部伸也先生寄稿）

今年で第４回目になる西地区（中国・四国・九州地区）登山部顧問雪山研修会は、昨年の第３回研修会での申し合わせ通り、１月３連休の初日・２日目に実施されました（九州などの遠方からの参加者にとっては翌日も休みであるのが望ましい）。場所は、第１回広島（もみのき森林公園・恐羅漢山、オプションで深入山）、第２回鳥取（鏡ヶ成象山～擬宝珠山・烏ヶ山中腹）、第３回島根（琴引山・大万木山）の後を受け、岡山県の蒜山周辺で実施しました。

当初の計画では、１日目朝鍋鷲ヶ山（あさなべわしがせん 1074m）・２日目上蒜山（かみひるぜん 1200m）の予定でしたが、田中初四郎先生の１週間前の下見により、朝鍋鷲ヶ山が意外と雪が多く予想以上に時間がかかると判明したため、朝鍋鷲ヶ山は時間の取りやすい２日目午前に回して、１日目午後は上蒜山の中腹までか、あるいは近くの三平山（みひらやま 1010m）にすることにしておりましたが、田中先生の最終判断で三平山に登ることになりました。（三平山はカヤと笹に覆われた山で大量の降雪時には雪崩の心配もあるのですが、このたびはその心配はあまりなさそうでした。）

参加者は鳥取・冨永、島根・舟木&藤原、岡山・田中&横井、広島・寺田&西部、香川・玉垣&金崎&西村&三宅、宮崎・下村の１２名で、当初参加が予定されていた島根・勝部先生は事情により不参加となりました。なお、１２名のうち冨永・舟木・田中・寺田・西部・玉垣・下村の７名は第１回からの皆勤賞ということになります。とりわけ下村さんは遠路はるばる宮崎から９時間かけて（1/10 午前０時出発・９時蒜山到着）の参加ということで頭が下がります。開催県の岡山から例年のお二人しか参加がなかったのは少々寂しかったですが、香川県からの参加が多かったのは嬉しかったです。さて、実技研修の様子ですが、以下その概略を紹介します。

１日目１３時過ぎに米子自動車道蒜山 IC のすぐそばにある道の駅「風の家」に集結したのち、３台の車に乗り合わせて岡山・鳥取県境の三平山登山口（670m）へ。スキーあ

るいはスノーシュー・わかんの支度をし、１４時１０分前登山行動開始。新雪の急登に喘ぎつつ、４０分ほどで東登山道との合流地点（890m）に到着。県境沿いの土塁についての説明看板が雪の上にのぞいているが、土塁そのものは今は雪にすっかり埋まっている。１０分ほど休憩したのち、傾斜が緩くなった尾根筋を山頂へ。この尾根筋と東側斜面は木もまばらで、広大な白い雪面が美しい。２０分ほどで山頂に到着（写真）。ただ山頂はあまりに風が強いので、ゆっくり休むこともなく、早々に下り支度。数分で先程の休憩地点へ。この辺りからは風もさほど強くない。スノーシュー・わかん班もスキー班にさほど遅れることなく到着。

ここからは二手に分かれて下降。ほぼ全員が、大体登路の県境ルートに沿って下山・滑降。スキー班は滑り出しはやや東寄りの疎林を滑降したのち、登路を横切って西側の小尾根を滑降。樹林帯ながら割と快適な下りであったようだ。一方、西部は、北東方向にある立木の少ないオープンスロープ＆植林帯の切り開きを狙って滑降。１０分足らずで登山口へと通じる林道へ降り立ち、あとは水平の林道をスキーのまま歩いて１５分ほどで出発点の登山口へ到着。他のメンバーもすでに着いているかと思いきや、２０分ほどたってようやく降りてきた。聞けば、途中の斜面で雪洞掘り訓練もやったとのことであった。

再び車に乗り、風の家でそれぞれの車に乗り換えて、今宵の宿舎である「むさしや旅館」へ。１６時半過ぎ到着。夕食前にひと風呂浴びてくつろぐ。１８時半から大広間で夕食を取りつつ、各自の自己紹介。香川県から参加の若い先生には雪山初体験の方もいた。そして雪山におおいにはまったとのことで、我々も研修会の意義おおいにありと喜ぶ。またＴ県のＴ先生は２０万（？）の大枚をはたいてスキー道具一式を新調したとのことだが、奥さんには一切内緒らしい。夕食の後は宿の好意で別の部屋にてさらに懇親会。翌日に備え、それぞれの部屋に戻ったのは２２時頃だったろうか。（以下次号）

編集子のひとりごと･･･山岳共済についての提案

12 月の全国高校選抜クライミング選手権でのこと。たまたま会場に居合わせた日山協の山岳共済の引き受け会社でもある三井住友海上火災の商品開発に携わるＮさん、代理店のＳさんと直接お話することができた。山岳共済保険については、今年度から、選手登録をした高校生は年会費無料の扱いをしていただき、高校生向けの格安な保険を提供してもらっていることは周知の通りだ。ただし、小生には不満もある。それについて詳しくは、かわらばん 511 号をご覧いただきたいが、いわゆるロープを使った登山（人工壁は除く）、アイゼンやピッケルを使う登山についてはこの格安な高校生向けの保険では対応できないという点だ。それで、登山道のない山にも行く、外岩にも行く、冬山体験や山スキーもさせる活動をしている小生は、生徒には一般向けの保険に加入をさせているのが実情だ。雪国の山岳部や少し踏み込んだ活動をしている山岳部にとっては、それについても高校生価格の保険があればありがたい。そんな話をさせていただくことができ、検討もしていただけることになった。少しでも前向きな話になればうれしいと思う。